

[学校教育目標]
笑顔かがやく きれいな学校

<研究主題>
自発的・自治的な活動を通して
一人ひとりが輝き、温かい人間関係を築く児童の育成
～互いのよさを認め合い、話し合い活動を充実させるための工夫～

<研究の仮説>
学級活動の話し合い方の改善を行い、児童の自発的・自治的な活動の
充実を図れば、本校の目指す児童像にせまることができるだろう

目指す児童像
低学年: 仲良く助け合って、楽しい学校生活を送ることができる子
中学年: 協力し合って、楽しい学校生活をつくる子
高学年: 信頼し合って、支え合って楽しく豊かな学校生活をつくる子

視点1
充実した話し合いを目指す指導の工夫
① 6年間を見通した系統性のある指導法の確立
② 計画委員への事前指導の仕方
③ のびのびタイム、学年、学級の時間の設定・活用
④ 学級活動コーナーの充実
⑤ 係活動時間の確保
⑥ 話し合い活動充実のための教室環境整備
⑦ 各教科における言語活動の充実

視点2
実践まで見通した指導の工夫
① のびのびタイム、学級の時間の有効活用
② 目標の可視化(1年間の学級の歩みの掲示等)
③ 特別活動全体を通じた、児童の自発的・自治的な活動の充実
④ 学級における「話し合い活動」の計画的な実践
⑤ 活動カレンダーの活用

互いのよさが認め合える
自発的・自治的活動

～校章・校歌を全校から募集し、決定する～
校章、学校キャラクター

～代表委員会～
運動会: スローガンを全校から募集し決定・作成する

～あいさつ運動～
「あいさつ」を作成し、朝は元気にあいさつ運動
いじめをなくすための運動
さいたま市子ども会議中学校区ブロック会に参加

～委員会活動～
全委員会: 国語の学習で学んだことを生かし委員会への提案書作成
図書委員会: 読書の推進を朝会で発表

～係活動～
学級活動コーナーに係コーナーを設け、お知らせをお願いを伝え、それぞれがどのような活動をしているかわかるようにする
係同士のコラボ企画が生まれる

温かい人間関係を築くための工夫

～異学年との交流活動～
6年生と1年生の交流活動
5年生と2年生の交流活動
4年生と3年生の交流活動
学級会で話し合い
2年生が5年生の学級会を見学

～異年齢集団活動～
1年生から6年生で構成された30人位のグループ
学期に1度なかよしグループで楽しく活動
1年に1回学校全体で遊びのイベント

～読書活動や道徳の授業の推進～
読書活動: 読書タイム、図書ボランティアによる「読み聞かせ」
道徳の授業: 公開日の一斉授業、全学年の教材の作成

三つの段階を踏まえた話し合いの展開【基本型】

<<1・2・3学年>>
出し合う: 自分の意見を出し合う時間
分かり合う: 質問・賛成・心配などを出し合う時間
まとめる: みんなの意見として学級でまとめる時間

三つの段階を踏まえた話し合いの展開【発展型】

<<4・5・6学年>>
ダンス: クラスの旗、言葉、側転、手拍子、激しく、ダンスグループのように
話し合い: 出し合う、分かり合う、まとめる

研究の組織と取組

<カリキュラム研究部>

- 指導案形式
- 美園小学校の学級会スタイルの確立と共有化
 - ・基本型一発展型
 - ・学級会ノート等の資料作成
 - ・関連発言や話型の検討
 - ・学級会隊形（座席）配置の工夫
 - ・板書の工夫
 - ・美園小リーフレットの作成



<板書の工夫>

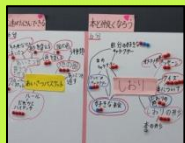
【基本型】

- ・学級会で児童から出された意見は、短冊に書き、黒板に貼っていき、全学級に短冊を配付した。取り外しや移動が可能なことや、色も3色用意してあることで、意見の分類やまとめる段階で効果を発揮した。



【発展型】

- ・自分の意見がホワイトボードに書かれていき、その意見をもとに考えを付け足すことができるので、より具体的に話し合えることができるようにする。
- ・ウエビングを見れば集団の思考がわかる。
- ・意見を生かしやすい。



<関連研究・調査資料部>

- 学級活動（1）で身に付けた資質が学校の教育活動に、どのように生かされているか。
 - ・異年齢集団活動（なかよしタイム）
 - ・集会や委員会等の児童会活動・クラブ活動・学校行事
 - ・国語科・道徳をはじめ全教科・全領域において言語活動の充実を図る
- 児童の意識調査
 - ・学級会についての意識調査
- 異年齢集団活動の掲示板（なかよし活動の一言感想コーナー）
- アンケート調査と考察



<環境整備部>

- 学級会用具・資料作成
 - ・黒板掲示（ラミネート短冊作成）
 - ・学級会ボード作成（計画・設計）
- 教室内の共通掲示物の作成
- 話し合い活動を充実させるためのコーナー作成
- 学級会の進め方（校内掲示）

<係コーナー>

<1年間の学級の歩み>



<学級会の話型>



研究の成果と課題

○成果 ●課題

- 全学年研究授業を行ったことで、美園小学校の学級会スタイルを確立することができた。三段階討議法を用い、1,2,3年生は基本型、4,5,6年生は発展型が確立した。
- 本校の学校裁量時間（のびのびタイム）を使い、計画委員会や係活動又は、学級会活動の時間にあてることができた。
- PDCA サイクルを意識し、全学級が学級会の授業研究を行い、自発的、自治的な態度や能力の育成に努めることができた。
- 異年齢集団活動等の交流を中心に、学年を超えた人間関係の構築に努めることができた。
- 高学年のウエビングマップのまとめ方について、何が決定したのかわかりにくいところがあったので、磁石や色分けなど行ってきたが、更に分かりやすくするために研究を進めていく必要がある。
- 今後も児童の自発的・自治的な活動を積み重ねていくことで、本校の学校教育目標である「笑顔かがやく きれいな学校」を具現化させていく。

<ご指導いただいた先生方>

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 文部科学省初等中等教育局視学官 | 杉田 洋 先生 |
| 國學院大学人間開発学部教授 | 宮川 八岐 先生 |
| 日本体育大学教育学研究室講師 | 石塚 忠男 先生 |
| さいたま市教育委員会学校教育部指導1課主任指導主事 | 橋本 大輔 先生 |
| さいたま市教育委員会学校教育部指導1課主任指導主事 | 田波 巨士 先生 |
| 埼玉県特別活動研究会副会長 | 白岡市立白岡東小学校校長 渋谷 修造 先生 |
| 埼玉県特別活動研究会副会長 | さいたま市立大宮小学校校長 今村 信哉 先生 |
| 埼玉県特別活動研究会事務局長 | 川口市立安行東中学校校長 熊谷 茂樹 先生 |
| 埼玉県特別活動研究会副主査 | 鶴ヶ島市立栄小学校教頭 中村 靖 先生 |
| 埼玉県特別活動研究会副主査 | さいたま市立南浦和小学校教頭 安部 恭子 先生 |

<研究に携わった教職員>

	校長	川本 順一	教頭	森 幹雄・増田 藤雄	教務主任	深田 暁
1年	高倉 弥生	佐藤 哲哉	大友 鮎美	佐藤 光子	岩内 香澄	田辺 高志
2年	下山 麻貴	小林 麻登	松崎 由佳	東郷 淳一	高山 裕里	石井 貴憲
3年	古川 勉	横田 雪乃	武久 麻美	◎秦 康宏		後藤 正子
4年	日倉 大補	小林 香理	皆川 良	渡辺 朋子		
5年	古森 博明	久保 厚彦	◇宝井彩子			
6年	○瀬川奈三	西片 隆晴				
にじいろ	杉枝 祐司	渡邊さおり				
かがやき	佐藤 智子					
本部	柴田 知幸	中村 裕之	松山 紀子	黒田真奈美	坂口 理緒	古谷 亮
	山岸 由佳	栗林 美幸	田中 美秋	伊藤 万里	高田 早苗	犬井 亜紀
	前田 明子	溝端 由紀	矢田部京子	川田 泉	石垣 美穂	富永 清美
	岸 典子	小口 妙子	加藤美佐緒	澤柳津加沙	石川 和美	小黒 和子
	ゾヨリ・クライト・ソラ	チーリス・アンド・リック・バーカス		小沼 豊	佐藤 典子	
	研修主任◎	特別活動課題研究主任○	特別活動主任◇			

<研究に携わった教職員 平成25年度>

- 教頭 丹後 雅博 三田 美紀 近藤まどか 稲葉 順子 波田野佳代子
 阿部 陽子 小山 祐子 山本 匡 榊原 英之 ジョセフ・バレス



平成25・26年度 さいたま市教育委員会委嘱研究推進校
 平成25・26年度 埼玉県特別活動研究会研究委嘱校
 平成25・26年度 国立教育政策研究所委嘱学習指導実践研究協力校



特別活動 リーフレット

自発的・自治的な活動を通して

一人ひとりが輝き温かい人間関係を築く児童の育成

～互いのよさを認め合い、話し合い活動を充実させるための工夫～



平成26年度
さいたま市立美園小学校

